

# 子どもと関わる大人の現場で すぐに役立つ研修会

特定非営利活動法人 みやぎ・せんだい子どもの丘  
〒981-0931 宮城県仙台市青葉区北山 1-5-22

## 助成事業の概要

### <対象>

保育所、児童館、放課後児童クラブ等 子どもと関わる施設・事業従事者全般

### <日時>

①8月1日(土) 14:00～15:30

講師：たにぞう (OFFICE TANIZOU 代表)  
講演『こんな時期だからこそ元気になる！遊び』  
内容：安全に配慮しながら、体を使ってあそぶ遊びの紹介等

②9月3日(木) 9:00～12:00

講師：矢藤誠慈郎 (和洋女子大学教授)  
講演『子どもと関わる施設におけるリーダーマネジメント』  
内容：施設運営を円滑にするリーダーマネジメントについて

③10月26日(月) 9:30～12:00

講師：志伯暁子 (キャリアトーク代表)  
講演『子どものやる気を引き出すペップトーク』  
内容：自己肯定感を高め、やる気を引き出すペップトークについて

## 事業の成果

本年度の研修は、新型コロナウイルスの感染予防対策のため、参加定員を減らして開催しました。ソーシャルディスタンスを保ちながら、消毒、換気を万全の態勢で行ったため、大きな混乱や問題

もなく終了することが出来ました。

①8月1日(土)

講師：たにぞう (OFFICE TANIZOU 代表)  
⇒参加者数：58名 (児童館職員、放課後児童クラブ職員、保育園、幼稚園職員等)  
NHK おかあさんといっしょ「ブンバ・ボン！」の作詞振り付けや、ももいろクローバーZの幼児向け番組ぐーちょにぱーてーのプロデュースを手掛けるたにぞうさんは、保育業界では知らない人がいない創作遊び作家です。『バスにのってゆられてる』『しゅりけんにんじゃ』など、日常の遊びとして浸透している人気曲を中心にあそびうたを教えてくださいました。コロナ禍の中、緊張しながら過ごす子どもの現場ですが、歌やあそび、お話が始まると、不思議と緊張していた部分がほぐれ、段々笑顔になる魔法のような時間でした。現場ですぐに使える、役に立つ学びもたくさんありましたが、それよりも最初と最後の参加者の表情の違い、大きなストレスを解消できたことが何より意義深い研修となりました。

②9月3日(木) 9:00～12:00 講師：矢藤誠慈郎 (和洋女子大学)

⇒参加者数：35名 (児童館職員、放課後児童クラブ職員、保育園、幼稚園職員等)  
矢藤先生のご専門は教育・保育の経営学で、現場におけるマネジメントで、予想以上に現場を振り返る機会が多い内容でした。これまでの慣習で行うことを少しでも変え、子どもたちにとって良い環境を作るために必要なことを具体的にお話頂

きました。「保育の質は、小さい変化で劇的に変えることができる」と淡々と、しかし熱っぽく断言されており、その言葉にうなづく参加者が多く見られました。「チーム」とは何か、「リーダー」とは何かを常に問いかけられているような、厳しくも考えるきっかけになる研修会でした。コロナの中であって、どのように園をマネジメントしていくか、具体的に見つめ直すよいきっかけとなりました。

③10月26日(月) 9:30～12:00

講師：志伯暁子(キャリアトーク代表)

⇒参加者数：24名(児童館職員、放課後児童クラブ職員、保育園、幼稚園職員等)

「子どものやる気を引き出すペップトーク」ということで、言葉かけの極意を教えてくださいました。ここぞ！という時に短い言葉でやる気を引き出すプロスポーツではよく使われているペップトークですが、コロナで気持ちが落ち込みがちな子どもたちと関わるためにまさに必要なスキルでした。参加者は、段々と目に力が宿り、前向きな姿勢で研修を受けている姿が印象的でした。まずは自分を承認する、〇〇するべき論から捉え方を変換していく、という具体的な説明に、頷きながら話を聞く参加者が多くいました。

## 成果の広報・公表

### <広報>

- ・チラシを①1500枚、②1000枚、③1000枚の3500枚を印刷し、特に仙台市を中心に宮城県内の児童館、保育園、幼稚園、放課後児童クラブなどに配付しました。
- ・当団体が加入する、仙台市児童館・放課後児童クラブ連絡協議会や運営する施設の近隣保育園、幼稚園へ直接チラシを配付するなど行いました。

- ・Facebookにてイベント告知を行いました。

### <公表>

- ・研修内容について開催前にホームページ等で公表し、開催終了後に団体 Facebook にて開催内容について広く発信しました。

## 今後の展開

今年は新型コロナウイルスの感染のおそれから参加者数は振るいませんでしたが、定員数を半数程度に減らし、消毒、検温、換気を徹底して行い、そしてソーシャルディスタンスを保ったため、特に大きな混乱もなく、無事に予定通り開催することができました。状況によってキャンセルが多く発生する回もありましたが、こういう時だからこそ『適切におそれ、子どもの現場に生かしていく』ことを念頭に、十分注意し開催できたこと自体が大きな成果だと思います。今後も様々な現場で頑張る職員のために、専門的な技術、知識を学ぶ機会を提供するとともに、心の支えになれるような機会づくりを行いたいと思います。具体的にはカウンセリングのような対症的な研修でなく、未来に夢を描けるような、子どもたちに元気と希望を与えられるような学びの場を更に作っていきたいと思います。今後も専門的な学びを得にくい子どもの現場職員のために、誰でも参加でき、入場無料で全国でも注目される講師陣を招き、本質的な学びや、職務に関する姿勢を改めて考えるような場を設け、子どもの笑顔のために職員が明るく楽しく仕事と向き合える環境づくりを続けていきたいと考えています。